

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201289		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸50番地334		
自己評価作成日	平成23年4月20日	評価結果市町村受理日	平成23年6月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の出来得る事への見極めを行い、ご自分のペースに近づけられるよう支援して生活して頂いている。「諦めないケア」への取り組みもしており馴染みの場、より家庭に近い環境で過ごして頂けるよう努めている。

職員が互いに理解しあい関係を構築する事でより良いチームケアができるよう努力している。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201289&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201289&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年5月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟」は法人が経営する老人保健施設に隣接し、協力病院や法人の3ヶ所のグループホームが集合している一角にある。建物の周囲は広く、中庭には鶏小屋や花、野菜畑があり、近所の子供が立ち寄り交流の場にもなっている。飼育している鶏、犬、熱帯魚と利用者は触れ合い、建物に沿った長いウッドデッキを歩き、中庭を散歩している。建物の共用空間は広く、個人の生活を重視した造りで高級感もある。開設8年を経過した当事業所は、法人の各委員会やマニュアル整備などの強力なバックアップの下に運営を行っている。新しく任務に就かれた2ユニットの管理者は職員と一緒に今までのサービス体制を継続し、さらに新しい取り組みを熱心に進められている。利用者の安心感を軸に災害対策や緊急時の協力体制を作り、近くにある協力病院との24時間連携、茨戸ふぁみりあ3ヶ所のグループホームと合同で運営推進会議を開催し情報を共有化している。法人のグループホーム共通の理念の下に利用者との会話からユニット目標を作り、利用者と共に作り上げる暮らしを大切にしている。管理者と職員は利用者の個別の意向に沿いながら丁寧に対応している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の掲げている理念を基に事業所独自の理念は作り上げている。入居者、来訪者にも見て頂けるようユニットや玄関ホールに掲示して解り易くしている。ユニット目標も作り実践している。	地域と共にあるという、法人グループホームの共通理念を当事業所の理念とし、携帯用カードにも記載している。また各ユニットでは2ヶ月ごとに利用者との会話から目標を作り、短い文章を掲げて生活のメリハリを共有している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼児用玩具を入居者が作り贈呈したりお返しされたり地域小学校が訪問してくれたり夏祭り際には地域の方に開放して来て頂いてるが日常的とは言えず施設側からもアクションを起こし町内活動に参加したい。	利用者が牛乳空パックに色紙を貼って作った玩具入りを保育所に直接届けて喜ばれている。子供連れの家族が事業所の庭で飼っている鶏や犬と触れ合う機会に子供と会話を交わしている。小学生の訪問による「よさこい踊り」も、毎年の楽しみになっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談を始め、運営推進会議の場で理解頂ける様努めている。職員も向上心を持って取り組みたいと思う。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	H22年度より会議参加者が交代した事や2ヶ月に一回の会議の定例化に伴い有意義なものとなっている。参加者からの希望も取り入れた会議となっておりと評価。昨年度の目標である計画的且つタイムリーなものになってきている。	法人グループホーム合同での運営推進会議を2ヶ月ごとに開催している。災害対策を協議し、外部評価の結果報告などの中で、出された意見を参考にミニ勉強会も行っている。家族参加への呼びかけは工夫を重ねているところである。	全家族に会議案内を送るようメンバーからも提案されているので、参加できない場合も家族から意見をもらえるような方法に期待したい。また家族が会議内容を意識して共有できるように議事録の送付にも期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報酬部分でのやり取りはあるが事務レベル。推進会議で地域包括支援センターから意見を頂くのに留まっているのが現状。	統括施設長が事業所の窓口になり、市・区の担当者と主に事務的な相談や情報を得ている。管理者は市・区の管理者会議に参加し、必要なことは現場で共有しサービスに活かしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への積極的な参加で聴講。又、ユニット会議内においても勉強しており職員全員が互いに注意を払いケアの実践に取り組んでいる。	法人で作成した身体拘束廃止マニュアルや外部で受講した内容などを基に、ユニット会議で拘束をしないケアを学び確認している。抑制に繋がる言葉に注意し、意識を持って声かけをしている。日中は玄関に鍵をかけず、利用者の動作からどうしたいのかを聞き、意向に合わせて対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、日々の業務の中においても意識を高めて防止の徹底に取り組んでいる。更衣時や入浴時の全身チェックも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>昨年度は研修で学ぶ機会が無かった。ご家族から相談があった場合には関係機関との連携、活用がスムーズであるよう努めている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>主に入居時に行っている。契約書以外の不安や心配事にも耳を傾けられるよう努めている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置、苦情処理担当者の配置、入居者、御家族からの意見は都度対応。返答が必要な場合も内容確認後、御家族に返答している。要望を伝え易い雰囲気作りも考慮している。</p>	<p>家族との信頼関係を築き、来訪時には率直な意見をもらせるようにしている。利用者・家族の意見などは職員間で対応を検討し、家族連絡簿に記録して共有している。内容によっては、本人・家族からの意見を「ご意見・苦情処理台帳」にも載せて対応している。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>法人母体が大きい為、代表者に伝わっていても反映されているかは不明。努力して頂いているのは伝わってくる。勤め易い職場と判断する。</p>	<p>ユニット会議やケアカンファレンスで業務の検討、またケアの提案などを取り上げて話し合い、解決に繋げている。職員は各担当の役割を持ち運営に参加している。年に1回は統括施設長との個人面談があり、仕事の中で管理者も職員の意向を聞いている。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職場に目を向けて頂き面談、研修を通してスキルアップに努めてくれていると判断する。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人研修が多くあった。外部研修への参加もあり報告し合い情報の共有もされている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム同士の研修は昨年度は無かった。外部研修で同職種の方々と交流、ディスカッションする機会はほぼ全職員があった。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にはご本人と面談、見学を行い予めお話しを伺い不安な事や希望を確認し情報収集を行っている。入居されてからの改善点は職員間で情報交換を行いケアに反映させている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	求めている事、不安な事が然るべきケアに結びつけられるよう職員間で周知している。来訪時には温かい雰囲気迎え関係を構築している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にはご本人、御家族の生活環境等を通して検討。グループホームか他サービスが適正なのか検討し対応しているが殆どの場合入居を前提とした相談である。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々人の生活歴や性格を尊重し、尊敬と安心感を意識している。又、同じ目線で考え協力し合い暮らせるよう努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々様子を報告しながら御家族の支援も大切である事を理解して頂き状況に応じて相談、協力を依頼している。ご本人にとってより良き方向へ支えていけるよう築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の入居者ではあるが手紙、電話のやり取りはある。来訪はいつでも可能な環境作りをしている。御家族対応ではあるが自宅を見に行ったりもしている。	友人の来訪時には話しやすいように自室で過ごしてもらい、茶菓子を出して寛げるように配慮している。お墓参りなど利用者の気懸りなことを家族の協力を得ながら対応し、毛糸を買いたい時なども状況を見て職員が同行している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で過ごす時間の共有を大切にしている。入居者同志の言動の変化にも留意し職員が仲介していく中で蟻りが解けたり軽度の方が重度化していく方を励ましている場面もある。		



自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他機関に様子を伺いに行ったり情報を頂いたり御家族にも何時でも来訪して頂ける関係は作っているが自然と疎遠になっている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設管理上可能である事については本人本位であるよう努力している。ご本人の言葉、サインから思いを汲み取る努力もしているが全職員が同じ考えとは限らず難しさを感じる。	職歴などを基本情報に取り、半年から1年の間に新しい情報を追加して状態を把握している。昔の遊びを覚えてもらう中で利用者を理解したり、意志表示の困難な場合は話しかけて表情から意向を確認している。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、御家族からの情報収集、他のサービス利用の経歴があれば情報を得ている。又、入居後もお話を伺い職員で情報を共有、沿った形でサービス提供に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り等で職員との情報共有を行い日々のコンディションに沿いケアを行うよう努めている。	
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議内でのカンファレンス、計画作成者と居室担当者とのモニタリングで行っている。併せて御家族からの希望も伺ってはいたが細部にまで意見を反映させられていなかった。	利用者の状態に変化がない場合は、基本的には3ヶ月ごとに見直している。生活のアセスメントシートからニーズを抽出して計画作成者と居室担当者とのモニタリングを基にカンファレンスで話し合い、更新計画に繋げている。利用者・家族の意向を入れた介護計画書に同意を得ている。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の書式を変更しサービス計画が反映され易くなった。しかし常に職員間で情報共有してはいてもモニタリングに活かされているかは不明。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来得る範囲での対応は行っているが、職員の人員確保、施設管理上の理由で柔軟さには欠けると判断する。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治体で行われているサービスは把握している。ボランティアの活用も発展段階。依頼中。是非活用していきたい。	
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の他身体症状に見合った他科受診も行っている。かかりつけ医との関係構築はされていると判断する。	協力病院の2週に1回の往診、週に1回の訪問看護の体制で、必要時には歯科の往診もある。他科受診や緊急時には職員が受診に同行し、家族とも連携し報告を密にしている。受診記録は個人ごとに分けてファイルに綴り、内容を共有している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回の訪問看護で日々の生活、心身の状況を報告相談している。随時の相談も可能であり迅速な対応をして頂いている。必要時には担当医との調整も行ってきている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の状況を伺いに行く、相談員、看護師、御家族との情報交換の他、提携病院からの入院中の状況や相談し易い環境下にあり関係作りはできている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際は重度化した場合のお話はさせて頂いている。疾患等の状況に合わせて他機関への検討もされてきたが御家族間でも決断されにくい事柄であり曖昧さが見られる。	利用開始時に重度化への対応方針と看取りに関する考えを文書で説明し同意を得ている。食事が摂れないなど終末期の状態になった場合は、主治医の判断の下で家族とも方針を協議し、入院治療の方向になる。方針は受診記録に記載している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの完備、各職員にはシュミレーションを行ってもらっている。H22年度は訓練は行われていない為定期的な訓練へと結び付けたい。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した訓練は行っている。近隣の施設、住民の協力体制も整っている。但し、水害や地震に対しての訓練は行っていない。	消防署の協力の下で、年に1回は日中を想定し、夜間を想定した訓練は後半に毎月行っているが、今後は3ヶ月ごとの訓練を検討している。法人に防火管理者会議を設置し、緊急時の法人のバックアップや近隣の福祉施設との協力体制を整えている。	今後は事業所独自でも地震や水害時のシミュレーションを行うなど、災害時の避難誘導の確認を期待したい。また災害時に備え、備蓄類などの確保にも期待したい。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の個性や性格を把握し失敗を否定せず、共感できる声掛けや対応を心掛けている。	利用者の今まで生きてきた過程に想いを馳せ、個を尊重する接遇となるよう対応している。呼称は名字に「さん」付けとしている。個人情報の取り扱いには保管場所を取り決めて管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で自己決定されるよう努めている。理解がされにくい方はサインを汲み取り希望に近づけられる様取り組んでいる。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	緊急、咄嗟の場合を除いては個人のペースで生活が送られるよう時間配分等臨機応変に対応している。但し、入居者の満足度という点では疑問視している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の決定、お化粧、髪型、マニキュア等楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者メニューで行っている。食べられない物は代替で対応。準備、片づけは個々の能力を勘案し発揮できるようにしている。	食材・栄養管理会社の献立で提供されており、今後、事業所の詳細な要望などがよりメニューに反映されるよう管理者会議に業者も参加する予定である。誕生会は利用者の好みの献立で祝っている。畑の収穫物を取り入れたり、中庭で流しそうめんを楽しむなど、変化を付けて楽しめるようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食事が提供されている。飲食物量が把握し易いよう記録されており充分と判断。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声を掛けて促す方、全面的に支援を要する方、各々に見合ったケアは行っているが拒否がある方へはタイミングを見計らって対応している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事内容、水分量に見合った排泄の誘導、下剤での調整で失敗を防ぎトイレで心地良く排泄できるよう支援している。	紙オムツを極力使用しない排泄支援に努めている。安心できる声かけと共に、適宜の誘導によって、入居後、便失禁が納まり布パンツに移行したケースがある。トイレの声かけは、他者に知られないように注意して行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便確認、腹部マッサージを促す、内服の調整、時に坐剤を使用。又、飲食物の工夫を行い便秘予防に努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の気分や体調に見合った支援については努めているが、重度化している事で複数職員で関わらなければならない、必ずしも入りたい時の支援に結びつけられていないのが現状。	ほぼ毎日湯を沸かし、利用者が3日に1回、もしくは最低週2回は入浴できるようにしている。入浴拒否時は、介助職員を交代したり曜日を変更し対応している。入浴日以外の日に足浴を実施したり、一方のユニットにはリフトを設置するなど、利用者の身体状況に応じた支援が行われている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜から日中の状況や培ってきたパターンを大切にしつつ日中は活動を促し、生活のリズムを整えられるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用は職員2名で確認し誤薬の防止、内科や精神科問わず内服の変更があった場合留意しなければならぬ点を把握している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基にした形で今の能力を勘案し、余暇活動やお手伝いの提供を行っている。時として負担に感じている入居者もあるかと思う。入居者観点からすると楽しみ、気分転換になっているか不明。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>個々人の希望には必ずしも沿えていない。御家族の協力の下外出されている事が多い。この一年、外出支援を様々な形で行ってきた。努力はしてきたと思う。</p>	<p>花見などの行事的な外出や周辺の散歩の他、事業所を囲むウッドデッキで外気浴をしたり、中庭での花摘みや犬のえさやり、鶏の卵取り、畑作りなど、真近で四季や自然に触れ、戸外で楽しめるようにしている。買い物はショッピングセンターなど、冬場も個別に出かけている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望に応じて所持されている方は御家族と職員が確認のうえ自己管理されている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ホーム内にポストを設置や個人で携帯電話を所持されている方もある。ご本人の大きな混乱に繋がらないタイミングを見計らい支援する事もある。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者個々人が生活し易いよう椅子やテーブル配置を考慮、季節や年中行事に合わせた装飾をして季節感を感じられるよう努めている。常に環境整備や清潔を心掛けている。</p>	<p>広い内玄関には、熱帯魚の水槽や利用者用のポスト、椅子を設置している。リビングは広く、天窓・テラス窓があり、明るくゆったりとした造りである。ウッドデッキが居間と中庭を結び、解放感や四季の移り変わりを感じられる空間でもある。幅や長さのある廊下は、絵画や利用者の作品、思い出の写真が掲示され、要所にソファを設置して思い思いに過ごせる場となっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>随所にテーブルやソファを置き好きな場所で過ごせられている。思い思いに過ごせられていると判断する。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前、後にご本人、御家族と相談し使い慣れた物を持ち込んで頂いている。御家族の写真をご本人にわかり易く工夫し飾っている方もある。</p>	<p>居室には、トイレ・洗面所、ベッド、小箆箆が備え付けられている。利用者の個性を活かした居室作りを支援しており、本人の意向を中心に生活がしやすいよう家族とも相談しながら物品などを配置している。ラジカセを聴いたり、編み物、植物を育てるなど自室で趣味などが楽しめるように環境を整えている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の能力に合わせた小作業を提供する事で機能低下の予防と自立心の向上に努めている。空間にゆとりがある事、施設設備も整っており恵まれた環境で生活されていると思う。</p>		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201289		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム 茨戸ふぁみりあ3号棟		
所在地	札幌市北区東茨戸50番地334		
自己評価作成日	平成23年5月5日	評価結果市町村受理日	平成23年6月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「3号棟ユニット」に同じ
--------------

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201289&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201289&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年5月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は施設内に掲示している。又、カードケースに入れて携帯することでいつでも職員の目に留まり、共有・実践している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学生が行事の案内を持ってきたり、時々、近隣住民や近隣施設の保育室の子供達が庭に散歩に来た際に入居者・職員との交流がある。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議にて認知症についての議題を取り上げ、認知症についてや、事業所への理解を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回のペースで行っており、参加者へ対し日常取組み等の報告を行っている。意見や助言、地域包括支援センターからの情報提供を頂き、サービス向上につながるよう努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各連絡会議などで情報提供があったり、必要な連絡事項については市や区から連絡がくる程度。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要以上の施設は行っていない。身体拘束を行う場合は、ご家族の同意と廃止に向けたカンファレンスを行う事になっているが、現状として身体拘束は行っていない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて学ぶ機会がある。又、日常の介助でチェックを行ったり注意をはらっている。言葉による虐待についても注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各自、資格取得時などで学んでいる職員もいるが、学ぶ機会は主に外部研修となっている。成年後見人については利用している入居者が居ない為、活用していないのが現状。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	概ね管理者が対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱・苦情処理対応者・第三者機関を設置しているが、ほぼ、直接的に管理者や職員に伝えられる為、迅速に改善できるよう努めている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議で意見交換を行っており、可能な事は反映できるよう努めている。又、施設長と職員が年に一度個人面談を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準・労働時間などは、法人内での規定があり、職員個々の捉え方により変化する。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修も充実しており、外部研修にも参加できる機会を設けている。有期実習型訓練を取り入れており働きながらトレーニングを行いスキルアップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内外研修などで同業者と交流する事はあるも、現状としてネットワーク構築とまでは至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人にお会いして直接話を伺い、情報収集をしたり、安心して利用開始できるよう事前にホームに見学に来て頂き、利用にあたっての不安等に考慮している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前のご家族との面談において、意見や要望を聞き取り、入居後も面会時に状態報告を行ったり、意見・要望を頂いたり信頼関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望の問い合わせや相談時には、条件が合っていれば入居の方向となるが、本人の意向や他に必要とされるサービスがあるか等の見極めを行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される一方の立場とは考えておらず、日々の生活の中で人生の先輩として傾聴し、不安や喜びを共有する事で互いに信頼関係を築き過ぎている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を中心と考え、日々の様子を報告したり、これまでの生活歴についてお話を伺ったりしながら、職員・ご家族共にあらゆる面で一緒に支援しているという意識を持っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話のやり取りなど、希望時には支援している。又、知人の面会などもあり、一部の入居者ではあるが、馴染みの関係が保たれている方もいる。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	軽度認知症の入居者同士はそれぞれに交流し関わりあっている。又、重度の方に対しても職員が仲介し孤立せずに過ごせるよう努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もすぐに関係を断ち切るという事はなく、必要に応じて対応する体制は出来ているが、現状としては退居後の事業所や病院等機関に委ねている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えられるばかりでもない為、伝えられない方に関しても、表情や言動などからくみ取り把握するよう努め、職員間で共有している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報をもとに、フェイスシートやアセスメントを作成し職員各自把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化など申し送りや記録を通し、職員間で把握できるよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの要望は意見を求めても、具体的返答はあまりないが、担当者によるモニタリングと個々に対するカンファレンスを開き、本人・家族の思いをくみ取りながら職員間で話し合い、介護計画へつなげている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員による気づきや日々の生活の様子は個人記録をとり、重要とされる事柄については、周知し易いよう申し送りノートを使用し把握できるよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り柔軟に対応しているが、現状として職員その時の人員上対応できない事もある。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに関しては発展中であり、本人が地域資源の中で力を発揮しながら過ごす事が出来るかは不明。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力病院との連携体制は整っており、適切な医療が受けられている。又、ご本人やご家族の希望時には希望の科の受診支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護にて、日々の変化等の情報を報告や相談し、必要に応じ上申により受診の指示や薬の処方を受けている。又、訪問看護以外でも随時電話連絡にて必要時には状態観察の為に訪問して頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には添書にて普段の様子を伝えている。又、ムンテラやI.C.などへも極力参加させて頂いており、医療機関との協働に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の指針について、説明しているが、疾患が変化し重度化した際は他機関への検討もするも、ご家族としての思いもあるようで曖昧な部分もある。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えシュミレーションを職員各自で行ったり、マニュアルにより対応出来るよう備えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は夜間・日中を想定し、前年度以上に行っている。地震や水害対策としての訓練や備えが不十分である。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はプライバシーへ配慮し優しく丁寧な言葉掛けを常に心がけている。又、個人記録などの個人情報管理は徹底している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう努めている。又、自己決定できない方に対しては、ご家族に伺ったり表情やサインを察知し対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課表はあるものの、基本的にはそれぞれのペースや思いで過ごして頂いている。入居者のレベル差が大きい為、希望に沿えない事もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の洗濯や髪型・お化粧などそれぞれの好みやこだわりを配慮して支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに関しては専門業者に依頼しており、好みや力が反映されているかは不明。準備や片付けなどは出来る方には参加して頂いている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、カロリー・塩分共にメニューに表記されており、把握できている。摂取量や水分量などもその方にあわせて提供しており、記録しケアに反映している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の方に関しては毎食後行っているが、元々の生活習慣で毎食後に行わない方や、拒否のある方、自立している方への確認はタイミングを見計らった対応となっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の内容・摂取量、水分摂取量などを把握すると共に、それぞれの排泄パターンを把握する事で失敗せずに排泄できるよう支援すると共に、サインを見逃さず誘導している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の把握に努めたり、下剤の使用により便秘の予防に努めている。又、便秘時は看護師・医師へ報告し適切に対応している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回の入浴ペースとなっているが、時間帯や曜日の指定はなく希望時には対応出来るよう努めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれのその日の体調等を把握し、状態に応じて休息できるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれが服薬している薬の種類など、常に閲覧できる場所にあり、症状変化時など確認できるよう努めている。又、薬のセットや服薬介助時などより多くの職員でチェックし誤薬が内容努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの趣味や得意分野を生かした役割や、楽しみを持って生き生きと生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>希望時には庭の散歩や外出など、可能な限り職員で対応している。又、遠方の場合などはご家族に対応して頂くこともある。職員の人的に対応できない事もあるのが現状である。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自身で管理できる方については、所持しており、買物時の支払いや医療費などをご本人より支払って頂く事もある。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望時には柔軟に対応している。又、ご家族や知人などからの電話の取り次ぎや手紙・荷物の受け渡し等も対応している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>常に環境整備に努めており、季節に合わせて装飾を変え、室内にいても季節を感じていただけるよう工夫している。又、リビングは日当たりがよく、ゆったりと過ごせる空間となっている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>好きな時に、好きな場所で過ごして頂けるよう、リビング以外にもソファやテーブル本棚などを置き工夫している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた馴染みの物を使用して頂くと共に、居室のレイアウトもそれぞれが使いやすい配置にする事で、安心して居心地のよい居室となるよう工夫している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとり心身共に自立した生活を送って頂くため、できることは積極的に行っていただけるよう配慮し、わかる範囲で安全に行えるよう支援している。</p>		



目標達成計画

事業所名 グループホーム茨戸ふぁみりあ3号棟

作成日：平成 23年 6月 9日

市町村受理日：平成 23年 6月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において、家族参加が少なく各ユニットの代表のご家族への案内送付となっている。	より多くのご家族へ参加していただく。	全ての入居者の家族へ推進会議の案内を送付。又、参加出来なかったご家族も含め会議録に目を通していただけるようにし、次回の参加を呼びかける。	6～12ヶ月
2	26	ケアプランにおける書類整備がされていない。	ケアプランに関する書類の整備。	ケアプラン作成の経過が分かりやすいよう、必要書類を一冊のファイルに整備する。	3ヶ月
3	35	防火訓練は行われているが、地震や水害を想定した訓練が行われていない。	地震や水害を想定した訓練を実施。	地震や水害時の避難誘導の訓練を行い災害に備える。又、備蓄品を確保する。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。